

栃木県教育委員会事務局塩谷教育事務所

【活動の概要】

塩谷教育事務所では、平成13年度から4年間にわたり、教員・地域活動実践者・行政職員からなる「ふれあい学習企画委員会」のテーマに「学校支援ボランティアの活動の推進」を設定し、活動を進めるためのハンドブックの作成や「ふれあい学習ネットワーク」における寸劇の実施、ボランティア見本市「ふれあいメッセ塩谷」を開催し、学校支援ボランティアの活動を塩谷地区内に広めることに取り組んできた。

平成17年度からは、これまでの実績を「学校支援ボランティア研修会」に生かし、より一層の活動推進に取り組んでいる。

【始めるきっかけ】

平成11年6月の生涯学習審議会「学習の成果を幅広く生かすー生涯学習の成果を生かすための方策についてー（答申）」の中で、「地域住民による多様な学校支援ボランティア活動の充実が重要」であると明記されたことで、学校支援ボランティアの活動が、一躍注目されるようになった。また、平成14年度からの新学習指導要領施行により、学校においては「生きる力の育成」「特色ある学校づくり」「総合的な学習の時間の実施」「完全学校週5日制の実施」など、学校支援ボランティアや地域社会と密接につながった教育活動の取組が必要となってきた。

これらの背景を受け、塩谷地区内の学校支援ボランティアの活動を推進していくことが、塩谷教育事務所の大切な役割の一つであると捉え、推進していくために必要な「情報・知識・場」の提供を行うことを目的としてスタートした。

その際、実際に活動に関わっている教員やボランティア、行政職員の思いや考えを反映したものとなるよう「ふれあい学習企画委員」を組織した。

【活動の内容】

学校支援ボランティアの活動を進めるためには、地域住民と学校のそれぞれに、活動のために必要な情報を発信することが重要と考え、ハンドブック「市民が学校へ行くときに～市民のための「学校」入門～」(H13)、「先生がボランティアと出会ったときに～先生のためのボランティア・地域入門～」(H14)、「地域と学校を結ぶコーディネーション入門」(H15)を作成した。また、3部作を「地域と平成16年3月に発行した。

そのまま使用できる「ボランティアの心得」や「活動案」、「打合せ用紙」や「単元一覧表」等を掲載し使いやすさを工夫をすると共に、塩谷地区内の小・中学校、教育委員会など関係各所に配付し、研修会等でも活用している。

また、ふれあい学習ネットワークにおいて、寸劇「ボランティア・教員・行政担当者の地域座談会」(H13)、「わかってほしいボランティアの気持ち」(H14)、「学校支援ボランティアのコーディネートは、こうでねえと？」(H15)を実施し、参加者にハンドブックの内容をわかりやすく伝えた。



＜「地域と学校を結ぶときに」＞

さらに、学校支援ボランティアの活動記録集の提示や、情報交換会を実施することで、教員とボランティア、行政職員をつなぐ場も提示した。



＜ボランティア見本市の様子＞

平成16年度には、より具体的な活動につなげるために、塩谷地区内で活躍している学校支援ボランティアの活動発表や実演・体験活動を行うボランティア見本市「ふれあいメッセ塩谷」を開催し、教員や地域住民に学校での活動の様子を知ってもらう機会を提供した。

このメッセがきっかけで、実際に学校での活動につながったものもある。

【成果と課題】

成果としては、ハンドブックの作成を通して、塩谷地区としての学校支援ボランティアの活動に関する「情報・知識」を提供することができた。また、住民対象・教員対象の各研修会においても、ハンドブックをもとにすることで、統一した考えのもとで取り組むことができた。

さらに、ボランティア見本市を実施することで、学校支援ボランティアの活動の様子を広く塩谷地区内に知らせることや、学校とボランティアがつながるための「場」をつくることができた。

課題としては、塩谷地区全域を対象として実施してきた研修会や見本市を、より学校と近づいた市町単位や学校単位で実施していくための、具体的な支援の在り方があげられる。

★ ここが特徴！

- ☆ 多年度にわたり、段階的計画的に取り組んでいる。
- ☆ 学校とボランティアがお互いに情報を発信し、双方向に使用できるハンドブックを作り、各研修で活用している。
 - * H13「市民が学校へ行くときに」
 - * H14「先生がボランティアと出会ったときに」
 - * H15「地域と学校を結ぶコーディネーション入門」
- ☆ 活動記録集やボランティア見本市を通して、ボランティアが提案・実践した活動を地区内に広く周知している。